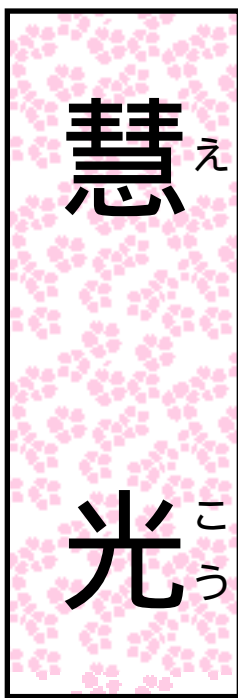




念仏一声申すと浄土の蓮が一つ咲くそうです (鮎川 稔氏撮影)



金光寺寺報
第158号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

おが
おがまれない者も おがまれている
おがまれないときも おがまれている

今月のことばは、東井義雄先生の言葉です。日頃とかけ離れた正反対のまなざし、それは単に、その時その時の出来事を、奇をてらって、他人が持ち得なかったまなざしで語ったというようなものではありません。日頃とかけ離れた正反対のまなざしとは、私たちが日頃は思いもしない、阿弥陀如来のまなざしだったのではないのでしょうか。

阿弥陀如来は、迷いの私を救おうと、願いを授けられたと『仏説無量寿経』(『大経』)に説かれています。「願い」という言葉を、私たちのレベルで考えると、「したい」「お願いします」という希望や欲求と一緒に感じてしまいそうです。阿弥陀如来の願いは、私たちが普段よく使う「お願い」などと、まったく違います。

阿弥陀さまのご本願は、単なる願いではなく

「誓い」であるのです。阿弥陀如来は「私が仏になるとき」と始めて、必ず救う、もし浄土に往生させることができないならば、決して仏にならな

いと誓われたのです。阿弥陀如来は、「救う用意は全て調えた。必ず救う南無阿弥陀仏と成就した。なのに生まれてきたそのまま、阿弥陀如来の本願名号を自らの救いと聞き受けなければ、また救いから除かれてしま

う。必ず必ず回心せしめてみせる」と、永らく誘法を続けてきたこの私に、強烈に回心を迫り続け

てきました。その甲斐あって、いまこの阿弥陀如来の誓いを、私の救いと聞きよるこぶことができました。如来のまなざしは、誠に強く大きなおはたらき

でした。(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の期日は緊急を除き、仏事は休ませていただきます。ご協力をお願いいたします。

記

- 8月24日~26日 私用
- 9月23日 秋季彼岸会法要
- 10月19日 宮崎教区仏教壮年大会



(Photo by Minoru Ayukawa)

7月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2014年 7月19日 寂 満74歳
高千穂 佐藤 征央 様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
8月7日現在 アクセス数 74,473人

夕方、境内の清掃を終えて入浴を済ませ、涼しいかっこうで扇風機にあたっていると、帰宅した坊守がその姿を見て一言、「明日から立秋よ。そんなかっこうはもうできんよ」。七日が七夕ということ、当然、知っていたつもりで、立秋とは思ってもいませんでした。秋、本格的な落ち葉の季節の到来ですね。食べ物も美味しいし、過ごしやすいが、一年で一番好きな季節ですが、落ち葉がその魅力を半減させています。中古車で状態が良く割安の軽トラックダンブ車をインターネットで見つけ、お別れすることにした。ダンブ仕様の車を探したのは、境内の環境整備をする際に、捨てる車を少しでも楽にしたいからでした。今月四日から使い始めました。今月四日から使い始めたのですが、とてもゴミ捨てが楽です。九割満足しているのですが、残り一割はエアコンが足らないことによる不満です。エアコンが足らないことを改めたい。エアコンが足らないことを改めたい。

(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

舍利

「舍利」は古代インド語の「シャリーラ」を音写した言葉です。シャリーラとは、もともと身体を意味する語ですが、やがて、遺骨、特に聖者の遺骨を意味する言葉になりました。お釈迦さまの遺骨を仏舍利とい

ます。お釈迦さまがお亡くなりになったとき、その遺体は火葬にされました。その遺骨を求め、八つの部族が争ったそうですが、結局、遺骨を八等分しました。仏舎利をもらった八つの部族は、それぞれその遺骨を自分の国に持ち帰り、塔を建てました。それが仏舎利塔です。舎利崇拜が盛んだったのでしよう。遺骨は仏の身体そのものと考えられていたようです。後世、アシヨーカ王は、八カ所に埋葬されていた遺骨を、さ

らに分骨し、全インドに八万四千の仏舎利塔を建てたと伝えられています。現在、すし屋などで、白い米飯のことを、俗に「シャリ」と呼んでいるのは、銀飯の艶やかな色や形が、仏舎利に似ているところからきたといわれています。銀シャリ、なつかしい言葉です。

(本願寺出版社発行 辻本敬順著
「仏教用語豆辞典」一〇〇ページから)

住職ひとりごと

何の役に立つの？

今日は八月七日。七夕で立秋です。台風十二号、十一号の影響で雨が続き、気温も上がりません。明日からはいいよいよ台風十一号が接近してきます。被害が起きなければと思っています。

ところで、最近読んだ、大阪府高槻市にある行信学校という浄土真宗の教義を学ぶ学校の一味出版部が発行している季刊誌「一味」夏の号に掲載されていたお参り『よもやま話』というコーナーの「何の役に立つの？」というコラムに心動かされましたので、転載したいと思います。ご一読いただければ幸いです。

何の役に立つの？

浄徳寺(大阪市)住職
三原信隆

季節外れの話題で申し訳ないのですが、お預かりしている門信徒さんの中に、毎年、受験生を抱えるお家があります。当然のことながら、希望通りの学校へ進める場合もあれば、そうでない場合もある。

前者の場合、こちらが尋ねずとも、にこやか顔で話を切り出してください。しかし、何も仰らないことがある。

触れてほしくないから黙っておられるのかな。もう知らせたつもりでおられるのかな。で、結果は？と、いろいろと考えて悩ましいのです。

いま、教育現場で、「異変」がおきていると聞きました。ある大学教授は学生からこんな質問をされて驚いたと。「西洋思想なんか学んで、将来役に立つのですか？」

また、小学校の教室でも
「先生、ひらがなやカタカナなんか、なんで勉強しないといけないの？」

大学生も小学生も同じ。役立つなら我慢して勉強するが、そうでなければしたくない、と。そして、「そんなもの、僕いらない」と、学ぶことを拒否する子どもが増えているんだという。

驚きました。学校の勉強は嫌いでしたよ。でも、しなきゃいけないものだと思ってました。子どもが学んで成長するというのは、「万能細胞」があらゆる器官の細胞に変化していくようなもので、周りの変化に即応して自らを変化させていく力を養うことですよ。それにそんな早い段階で変化を拒んでどうするの。

子どもは大人の鏡だつていうじゃないですか。子どもは自分の価値観に凝り固まっている大人を見ているんでしょ。変化を拒む大人を見ているんでしょ。

「こんどの法座、ちょうど日曜日だからお寺に参つてな」「お聴聞してな」と呼びかけてもいつも曖昧な返事。でも、表情から「仏法聞いて何の役に立つ？」、「そんなん、聞かんでも何の差支えもなかったけど」という応えが読み取れます。

仏法が身近にあっても、自分の価値観で拒絶する方もあります。社会は変化しますよ。自分の身体も変化しますよ。あなたの価値観も崩れるときが来ますよ。その時に慌てないよう、いま聞きましょう。

如何ですか？
自分の価値観というより、損得勘定で仏法とのご縁を遠ざけていませんか？
お聴聞しなければ、いつまでも自分の物差しで人生をはかり続けていきます。

法語の世界

〈原文〉

往生は一人のしのぎなり。一人一人仏法を信じて後生をたすかることなり。よそごとのやうに思ふことは、かつはわが身をしらぬことなりと、円如仰せ候ひき。

(蓮如上人御一代記聞書 百七十一)

〈現代語訳〉

「往生は一人一人の身に成就することからである。一人一人が仏法を信じてこのたび浄土に往生させていたただくのである。このことを人ごとのように思うのは、同時に一方で自分自身を知らないということである。」と、円如さまは仰せになりました。

〈用語の解説〉

しのぎ… 事を成し遂げること。成就すること。
かつは… 同時に。一方で。

平成二十六年秋季彼岸会法要のお知らせ

とき 九月二十三日(火) 午前十時
勤行 正信念仏偈(草譜) 念仏和讃(六首引き)
ご講師 宮崎教区 高千穂組 正念寺住職
浄土真宗本願寺派布教使
吉村 順正 師

その他 彼岸会法要は金光寺仏教婦人会の例会です。仏教婦人会会員の皆さんの法要御参詣をお願いします。
また、一般門信徒の皆さんのご参詣もお待ちいたしております。

盆踊り大会開催のご案内

8月14日、境内地で盆踊り大会が行われます。老若男女のご来場をお待ちしております。ご家族お誘いあわせの上お出ください。バザーやくじ引き大会が行われます。

